

コラム ジェンダー平等の観点から見た日本の人口減少問題

今月、厚労省が発表した2020年（1月1日～12月31日）の人口動態統計月報年計（概数）（文献1）によれば、日本の出生数は前年（2019年同期間）より2万4,407人少ない84万832人で、1899年の調査開始以来、過去最少を記録しました（文献1）。このショッキングな報道が記憶に新しい方も多いのではないかと思います。そこで今回のコラムでは、ジェンダー平等の観点からこの問題を考えてみたいと思います。

日本の総人口（各年10月1日現在の外国人を含む人口）は2008年をピークとして、それ以来減少を続けています（文献2）。2021年5月1日現在の総人口概算値は1億2536万人と発表され、前年同月に比べ53万人減少しました。総人口の変化は、人口学的に国内における出生数と死亡数の差（自然増減数）ならびに入国者数と出国者数の差（社会増減数）で決定されます。これらのうち、自然増減数の推移は2005年よりマイナス値（出生数<死亡数）に転じ、それ以来マイナス値を続けています（図1）。

2020年における日本の人口動態は、2019年と比べて出生数、死亡数、死産数、婚姻件数、離婚件数のいずれの指標も低下しています（文献1）。自然増減数を決定する出生数と死亡数のうち、出生数の年次推移は増減を繰り返しながら、1975年以降は減少傾向が続いています。死亡数の年次推移は2020年にわずかに減少しましたが、1980年以降は増加傾向が続いていました。

2012年からは75歳以上の高齢者死亡数の全死亡数に占める割合が7割を超えています。したがって、出生数の低下と高齢化に伴う死亡数の増加の両者が日本の人口減少の主要因と考えられます。

合計特殊出生率（一人の女性が出産可能とされる15歳から49歳までに産む子供の数の平均値）の年次推移は1967年より減少傾向が続いていましたが、2005年から増加傾向に転じ、2012年以降再び緩やかな減少傾向を示しています。婚姻件数の年次推移は1972年をピークとしてその後減少傾向にありましたが、1988年から緩やかな増加傾向に転じました。その後、2002年から現在まで減少し続けています。2020年における婚姻件数の顕著な低下は、新型コロナ禍によって「出会い」が減少したことなどが影響したと考えられますが、婚姻件数の減少は新型コロナウイルスが問題化する前から長期的に見られますので、本質的な原因は他にあると考えべきでしょう。

（次頁へ続く）

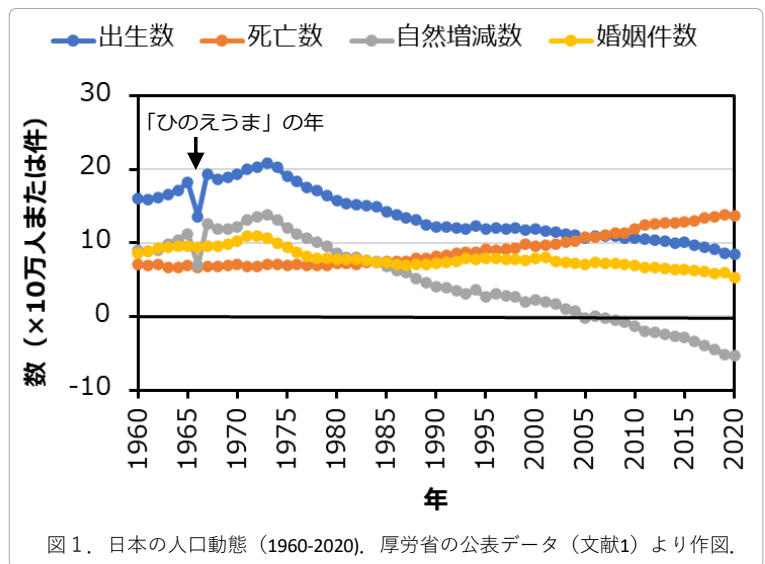
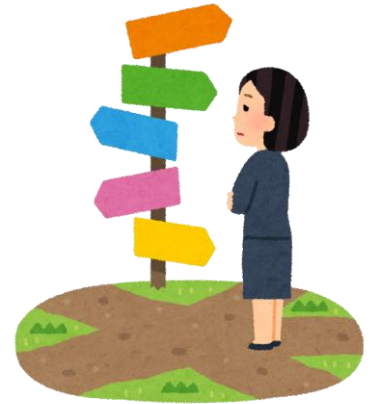


図1. 日本の人口動態 (1960-2020). 厚労省の公表データ (文献1) より作図.

(前頁からの続き)

日本の女性は、なぜ結婚や出産を控えるようになったのでしょうか。よく言われることは、高度経済成長期以降、女性の社会進出が進み、結婚より仕事を選ぶか、結婚した場合でも出産を控えたり、遅らせたりするようになったという指摘です。しかし、この認識では重要なポイントを見落としていることが指摘されています。今日の先進国では、女性の就業率が高い国ほど出生率も高くなる傾向があるのです(文献3)。この傾向は、結婚・出産と仕事の両立に成功している国があることを示しています。したがって、日本では女性が結婚・出産と仕事のどちらかを選択しなくてはならないような状況にあること自体が問題なのです。



結婚・出産と仕事の両立を妨げる要因は何なのでしょう。令和2年版男女共同参画白書(文献4)では、OECDが2020年にまとめた男女(15~64歳)の生活時間の国際比較データを引用し、日本男性の1日あたりの有償労働(対価のある労働)時間がOECD諸国で最長(452分)である一方、1日あたりの無償労働(家事、育児、介護、買い物、ボランティア活動など)時間は最短(わずか41分)であることを問題視しています。日本女性の有償労働時間(一日あたり)は、2014年にはOECD平均より短かった(206分)が2020年には272分まで伸びてOECD平均を上回りました。また、有償・無償をあわせた総労働時間は日本の男女ともに最長であり、時間的にはすでに限界に達していると考えられます。一方、日本の無償労働が女性に偏るという傾向は極端に強く、男性の長時間有償労働に起因して日本はOECD諸国の中で最もジェンダー不平等にあると言えます。

同コラム(文献4)では、このジェンダー不平等は6歳未満の子供を持つ夫婦で分析しても同様であると報告しています。日本では、2016年における夫の家事・育児関連に費やす時間(1日あたり)は83分で、2011年と比べて増えてはいますが、他の先進国(150~201分)と比べると低い値です。日本の夫婦合計の家事・育児関連時間は諸外国と同等なので、夫の貢献度が低い分だけ妻の家事・育児関連時間が長くなっていることが分かります。さらに同コラムは、日本と同じく男女とも総労働時間が長い(480分超)カナダ・スウェーデンと日本を比較し、日本女性は有償労働時間と無償労働時間それぞれの長さや両者の割合において2国の女性と大差はないが、日本男性は2国より有償労働時間が極端に長いことを指摘しています。そして、日本男性の有償労働時間の見直しがジェンダー不平等の是正に有効であると述べています。

津谷氏(文献5)は、日本の働き盛りの夫婦(20~49歳)を分析し、家庭内ジェンダー不平等が妻の結婚満足度を低下させることを明らかにしています。すなわち、夫の家事時間が短く、妻の家事時間が長いほど、妻の結婚満足度は低下するのです。したがって、家庭内ジェンダー関係の不平等性をやわらげ、多くの妻が直面する仕事と家庭の両立の困難さを軽減することが女性の結婚を後押しし、ひいては出生数の増加にもつながると述べています。

もうひとつ重要な要因として、職場におけるジェンダー不平等の問題があります(文献6)。これには、雇用、処遇や昇格などいろいろな側面がありますが、長くなりますので別の機会に譲りたいと思います。

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

日本の人口減少を軽減するためには、家庭内ジェンダー関係の不平等を是正し、女性の結婚や出産を阻む要因を取り除くことが必要です。男性職員の皆さん、今日は定時退所して、家事や育児・介護に時間を割いてみませんか。その積み重ねが、日本の人口減少に歯止めをかける一番の近道なのかもしれません。

農研機構人事部ダイバーシティ推進室 池田浩明

引用文献：

1. 厚労省 (2021) 令和2年(2020)人口動態統計月報年計(概数)の概況 (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai20/index.html>)
2. 総務省統計局 (2021) 人口推計 (令和2年(2020年)12月平成27年国勢調査を基準とする推計値, 令和3年(2021年)5月概算値) (<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.html>)
3. Brewster, K.L. and Rindfuss, R.R. 2000. Fertility and Women's Employment in Industrialized Countries, Annual Review of Sociology 26, 271-296. (<https://www.annualreviews.org/doi/pdf/10.1146/annurev.soc.26.1.271>)
4. 内閣府男女共同参画局 (2020) 令和2年版男女共同参画白書。コラム1：生活時間の国際比較 (https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/zentai/html/column/clm_01.html)
5. 津谷典子 (2020) 会長講演：夫婦の就業と家庭内ジェンダー関係の結婚へのインプリケーション。人口学研究, 56, 1-7.
6. 鈴木淳子 (2017) ジェンダー役割不平等のメカニズム：職場と家庭。Japanese Psychological Review, 60, 62-80.

事例紹介 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）では、週2回の定時退所日に所内イントラネットにて、「今日は何の日」情報を添えてアナウンスしています。

本日6月2日（水）は定時退所日です。
皆さま、声を掛け合い、早めに帰宅しましょう。

6月2日は、「横浜カレー記念日」です。1858年（安政5年）に締結された日米修好通商条約により、翌年のこの日（旧暦）、横浜港が新たに開港しました。この開港によりカレーライスが日本に伝えられたことを記念して制定されました。当時日本に伝えられた最古のカレーは、アカガエルが食材に含まれる「カエルカレー」であったそうです。驚きですね。今日の夕食に「カエルカレー」は無理でも、いつもと違う食材を使った「定時に帰るカレー」に挑戦してみたいかでしょうか。



農研機構ダイバーシティ推進キャラクター
おむすび なるりん
NARO Diversity Promotion Character
Omusubi Narorin

Today, Wednesday, June 2 is No Overtime Day.

Let's call out to each other and go home early.

June 2 is "Yokohama Curry Anniversary". Following the conclusion of the Treaty of Amity and Commerce between the United States and the Empire of Japan, Yokohama Port was newly opened on this day of 1859 (lunar calendar). It was established to commemorate the introduction of curry to Japan after the opening of the port.

It is said that the oldest curry that was introduced to Japan at that time was "frog curry" which contained red frogs. That's amazing!

■ ■ ■ ニュースレターへ記事をご投稿ください！ ■ ■ ■

掲載を希望する記事がありましたら、数行の記事でも結構ですのでぜひお寄せください。

記事の宛先：DSO事務局（農研機構） f-support@ml.affrc.go.jp